

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2490200371		
法人名	株式会社 W (ダブリュー)		
事業所名	ういるグループホーム泊		
所在地	三重県四日市市泊山崎町2-11		
自己評価作成日	令和 3年 10月 1日	評価結果市町提出日	令和4年1月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiqokensaku.mhiw.go.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JiqvosvoCd=2490200371-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和 3年 12月 10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①利用者様にとって当施設での生活が、家族様との生活により近く、自然で楽しくそして、美味しい食事を沢山召し上がって頂き、職員の顔を見ると安心して頂けるよう、日々力を入れている。②季節を感じて頂けるよう、行事や制作にも力を入れている。③畑で季節の野菜や花を育てている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

四日市市南部に位置する住宅地の中で、平家建ての落ち着いた日本家屋の事業所である。平成29年春の開設より5年に入り、コロナ禍にあっても利用者や近隣への散歩に出たり、地区自主防災隊より協力体制へ力添えの書面を賜ったり、地域に密着した日々の生活が営まれている。開設後も職員皆が、理念について常に見つめ直して、「共に楽しく、共に笑顔で一日一日を大切に」と新たに作り上げ、具体的に理念を意識して日々の実践に繋げ、職員同士もコミュニケーションや職場環境に安心感が感じられる。訪問当日の午後からは、敷地内の庭先でおやつ「焼き芋」で利用者が秋の味覚を味わう楽しみが見られた。クッキング好きな職員と共に、食事への関心と食欲を高める場面作り等も日々の生活に盛り込み、理念を具体化して行く意識を持って支援に努めている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念は「ありのままにその人らしく」認知症であっても、その人らしさを大切にし、事業所理念は「共に楽しく、共に笑顔で一日一日を大切に」笑顔が多く楽しい時間を過ごせるように努めている。	開設より4年が経過し、職員からの提案で「共に楽しく、共に笑顔で一日一日を大切に」と、新理念を作り上げた。職員は日々利用者に関わる際には、具体的に理念を意識して、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの為全て中止又は不参加とさせて頂いているが、本来は地域の行事には積極的に参加させてもらっている。	自治会に加入しており、白髭神社の年末合同掃除は地元の恒例行事である。灯笼準備や縄組み等、若手職員が積極的に活躍して交流の場がある。日永地域は行事が多く、地域住民の一員として、地域活動の接点を持つ努力をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括や在介、介護高齢福祉課などと連携を取り合い、祭りや子ども食堂、ハロウィン等イベントを行い、地域の人々に向けて、認知症の理解を含め住民からの相談を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年からのコロナ禍の為、書面での運営推進会議を行っています。書面での意見等を頂いたり、アドバイスを頂き、サービスの向上に活かしている。家族様にも書面を郵送し、見て頂いている。	「書面での推進会議」を年に6回郵送している。参加メンバーより対策法や感想・助言が、毎回多数寄せられて、会議の臨場感溢れる「議事報告書」である。事業所のより良い協力者として、開かれた交流促進の場として活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	現在は行事が出来ない状況で、参加して頂く事が出来ておらず、書面や電話、メール等で理解と協力を頂いている。	日常業務での相談や助言には、電話やメールで行政との協力体制を築いている。コロナ禍での課題解決等には、行政に実態を知って貰い情報の共有をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束検討会を3カ月に1回実施している。その際に、身体拘束とは何か、虐待の種類、また今のケアの中で身体拘束(行動抑制)にあたるものはないかなど話し合いを行なっている。	3ヶ月に1回の身体拘束検討委員会を行い、事業所の取り組み方針や工夫を話し合っている。利用者が一番嫌だと思われる「無視」についての研修では、不安や混乱が無い支援を学ぶ機会にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者主導のもと、職員間で虐待行為を見逃さないように徹底管理している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修等で周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分な説明を行い、利用者・家族に理解して頂き承諾を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月に一度、書面にて状況報告を行い、コロナ禍の為、面会も緩和されていない為、職員との関わりも少ない事から、月に一度、電話にて意見や要望を聞かせて頂いている。	ガラス越しで顔を見て貰う面会、書面での状況連絡や電話連絡の折りには、家族の思いや要望を尋ねている。「コロナが落ち着いたら、外に連れて行きたい」と家族からの声が多くあり、感染情報などを見極めながら、前向きに受け止めて実践に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議での意見交換と、個々の面談を行い、職員の意見を聞く機会を設けています。出していただいた意見や提案は、日常の職務に反映させている。(みんなと話し合いのもと)	年2回人事考課で、職員のメンタル面や満足度を把握する様心掛けている。職員自身が責任感を養え、スキルアップが備わる様な職場環境を目指し、働く意欲と質の向上に努めている。職員の勤続率も高く、異動の無い職場である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に面談を行ない思い、職員の思い等、聞けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議の度に社内研修を行なっている。今の状況でも参加できる研修には参加をするよう心掛けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、2カ月に1度の運営推進会議を書面送付で行っているため、その中で介護施設の管理者、ケアマネ、介護関係者の方々と意見交換や、ご指導を頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人や家族より要望を聞き取り、精神面でも安心して生活していただけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に本人や家族より要望を聞き取り、入居後の精神面でも安心して生活していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期のアセスメントで、本人の状況を把握して、生活環境等の情報収集を行なっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族様と生活されていた時と同じ生活により近づける様、掃除や洗濯、食事の準備、レク等、暮らしを共にする者同志の関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係性等配慮しつつ、協力して頂けることは依頼している。コロナ禍もあり施設へ来ていただく事が難しい時には、手紙や電話にて報告、連絡、相談を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なかなか外出が出来ない中、少人数でのドライブで馴染みの場所へ出かけたり、レクリエーションに取り入れたり、個々の会話にて思い出話をしたりしている。	少人数で町内散歩や、景色を楽しむドライブで馴染みの場所を味わって貰っている。訪問理美容の方や、訪問診療の先生との会話の時間も、馴染みとなっている。「ユーチューブ」を利用した昔馴染みの漢字読みで、頭の体操を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を把握しつつ、個人の意思や人間性を尊重しながら、生活リハビリやレクリエーション、行事等を通じて、利用者が孤立する事がない様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて、家族様のフォローや相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望・意思の把握に努めております。困難な場合は本人の表情や行動、言動を観察、推測し支援するように努めている。	利用者が「塗絵がしたい」という思いには、直ぐにネット検索で準備をし、食に関する思いも聞き出せば直ぐに整えている。職員は利用者の発言や行動を、日々丁寧な傾聴と観察に努め、皆んなで共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族より過去の暮らしや生活歴、これまでのサービス利用の経緯等を傾聴し把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で個々の一日の過ごし方を大切にしながら、言葉や表情を観察し小さな変化をも見逃さないように職員間で共有し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、協力機関と連携して、相談しながら得たアイデアを反映した介護計画作りにも努めている。	アセスメントとモニタリングを基本として、利用者の視点に立ち、家族からの要望収集や臨機応変な見直しで、計画作成をしている。終末期支援体制に入る場合には、看取りプランに切り替えて柔軟に対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	細かな変化も個別記録に記入し、職員間で話し合い、意見を出し合い、情報を共有しながら、実践や介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	必要に応じて専門医への定期受診を行なっている。また訪問美容など、その時のニーズに合わせた対応、サービスを利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	今年度もコロナ禍の為、地域の行事は全て中止、又は不参加としている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と家族様と事業所とで連携を取り、月2回の往診と24時間体制での連絡、訪問を行っている。	利用者全員のかかりつけ医が協力医で、月2回訪問診療と週1回訪問看護を受けている。皮膚科医の訪問診療もあり、歯科医は状況により訪問対応可能である。夜間も24時間訪問看護を受けられて、安心と安全な支援に取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度の訪問看護の中で、日常の様子、体調の変化等を細かく看護師に伝え、相談し、適切な受診や看護を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療情報はかかりつけ医療機関に行なっていたり、日々の過ごし方、支援内容については施設側から情報提供させていただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期状態になった場合 本人、家族、主治医などと話し合いをし、希望に沿った支援方法を共に考えられるよう努めている。	開設5年を迎え、昨年に続いて今年も看取りの支援を行い、協力医や訪問看護との協力体制は整っている。コロナ禍であるが、十分な話し合いと万全な予防対策の上、看取りへの家族面会を、直接居室で行う方針で対応ができ、家族からの安心の声があった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修や勉強会を行い、訪問看護師にアドバイスや初期対応を教わったりと、実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難マニュアルを活用し、地域との協力体制も築いていけるよう努めている。	消防署への通報避難訓練を年2回実施している。水害指定地区でもあり、自治会長の協力で、近隣の3階建て会計事務所を水害時避難場所としている。台風被害が心配な時に、近隣の高齢者を事業所へ、一晩避難受け入れも行った。書面にて自治会協力体制も記されている。	水害時避難場所としての建物に、利用者が実際に安全な避難が出来る事を、職員が実地見聞される事を期待する。また近隣火災発生で切迫した状況下を想定した、机上訓練なども期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人一人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心掛けている。	利用者を尊重する声掛けを第一に、トイレでは「大声で誘わない」「必ずドアは閉める」の統一した支援に努めている。配慮に欠ける言葉で誤解を招く事もある為、利用者との会話には十分な気遣いを徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、自身の思いや希望を伝えられる方には寄り添い傾聴を行い、難しい方からは、その時の言葉や表情、行動にて、要望の配慮が出来る様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設での生活であっても、一人一人のペースを大切に、その方に合った過ごし方をして頂けるよう、職員全員がその方に合った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪型、服装等、色や上下のバランスや、季節に合った服装、身だしなみをして頂く様、心掛けている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の食事形態を把握し、好みの物や、そうでない物もアレンジにより美味しく召し上がって頂ける様、日々考慮し、利用者と一緒にこなっている。	クッキング好きな職員の「食事レク」はパスタ作りにも人気があり、美味しく作り美味しく食べる為に、食事への関心を誘う工夫をしている。ビュッフェ式バイキング食も、利用者の食欲を高める場面作りを大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取量を把握し、違いはあってもそれぞれがバランスよく、栄養摂取をして頂ける様、又、水分も摂って頂ける様、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを促し実施している。必要に応じて介助支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活記録表に排泄状況、チェックを記入している。その方の状況によって介助を行い、自立で排泄して頂ける様、支援を行っている。	「出来るだけトイレで排泄」を目標として、排泄時間や回数を把握してタイミング良く誘導している。車椅子の利用者も座って排泄を促し、良い習慣を心掛けて支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医や、訪問看護師にも相談しながら、一人一人に合った食事や飲み物、運動等にて便秘予防の対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を拒否される時には、時間をずらしたり、日を変える等、ご本人の意思や気持ちを優先し行なっている。	週2回の午前・午後に限らず、生活習慣に配慮をしながら、入浴している。お湯は1人ずつ入れ替えて、入浴剤はグリーンや黄色に人気があり、色や香りで寛いで貰っている。利用者が安心と満足が出来るように入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の就寝時間に合わせ、その時の状況や体調にて休んで頂く様に心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変化や効果等、細かく情報を伝え、職員全員が理解出来ている様努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意なことや、苦手なこと等、職員が把握し、役割やお手伝いを促し楽しみながらして頂ける様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今はコロナ禍の為、外出も限られたものになっているが、気候が良い日には施設の庭でおやつを召し上げて頂いたり、畑の手入れ等行なっている。	園芸療法を目的に畑作りでは水やり・草抜き・収穫を通して、利用者は積極的に日々短時間でも外気に触れて五感刺激が得られている。平日人の少ない時、木曾三川公園へドライブと花の観賞に出掛けたり、四日市周辺で四季を感じる景色が見られるドライブ等、月に数回気分転換に出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当施設では個人のお金の所持は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ禍の為、面会が中止となっているので、電話やリモートでお話しをして頂く機会を作っている。又、季節感を取り入れたハガキを作り送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月、季節の飾りを考え、利用者と一緒に手作りカレンダーの作成を行い、フロアに飾っている。又、リースやしめ縄などを編んだりして季節を感じてもらえる様工夫している。	明るく広々としたリビング兼食堂は、利用者が伸び伸びと寛げる共有スペースである。廊下や壁面には、四季を彩る利用者と職員の共同作品が掲示されている。掃除や手入れ、除菌等の衛生面も行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアでの席を時々変えてみたり、気の合った方同志のテーブルにしたりと個々の気持ちを大切に、居室での時間も取って頂ける様工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれの居室には好みの家具や、好きな張り紙や絵を飾ったり、思い出の写真を置いたりして、気持ちよく過ごして頂ける様工夫している。	利用者と家族の想いが籠った馴染みの品々が持ち込まれている。使い慣れた鏡台や家族写真、ペットの写真等があり、以前には釈迦の御守り像も置かれていた。居心地良く過ごせる居室の環境作りを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の認知度や自立度に応じ、日々の生活をご自身で行って頂ける様支援している。		